

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	ドクターゴン鎌倉診療所における電話等再診の内容調査	
演者名	関谷恭介、千葉晴子、久島和洋、今井一登、曾我幸弘、泰川恵吾	
所属	ドクターゴン鎌倉診療所	
研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 ⑨ その他研究	NO. 9
<p>目的</p> <p>日常の訪問診療の傍ら、患者からの問い合わせに対し、緊急に往診すべきか電話での対応で十分なのかを判断することは、非常に難しい問題である。とりわけ、複数の医師と多数の患者を抱える診療所では顕著であると思われる。今回我々は、自施設における、電話再診のみで対応した事例を調査し、検討することで、往診に至らなかった理由や背景を抽出し、今後の診療に役立てることを目的とした。</p> <p>方法</p> <p>平成 24 年 4 月 1 日から平成 26 年 9 月 31 日までに、ドクターゴン鎌倉診療所における患者からの相談事例を対象とし、電子カルテレビューを行う。</p> <p>調査内容は、患者背景（年齢、主病名、介護度、日常生活自立度）、電話相談の回数、電話相談の時間帯、および電話相談の内容とする。</p> <p>結果</p> <p>298 名の患者からの相談事例が計 676 例であった。うち、日勤帯（7:00～18:00）での相談が 520 例（76.9%）、準夜帯（18:00～22:00）が 113 例（16.7%）、深夜早朝帯（22:00～7:00）が 43 例（5.6%）であった。</p> <p>その他内容は、現在調査中である。</p> <p>考察</p> <p>調査結果とともに考察し、今後の診療に参考となる事柄を提案したい。</p> <p>しかしながら、緊急に往診に行く理由は必ずしも医学的理由ではないことも多く、患者および介護者との関係性であったり、不安を取り除く目的であったりすることも多い印象である。そのことも踏まえて、今回の調査を日常診療の参考とし、よりよい患者医師関係を築いていければ幸いである。</p>		